

第2回 東大和市都市マスタープラン改定懇談会

会 議 要 録

- 1 日 時** 令和6年3月25日（月）10時00分～12時00分
- 2 場 所** 会議棟6・7会議室
- 3 出席委員** 松本 暢子（座長）、北田 和雄、高橋 章、大重 雅弘、
五十嵐 知徳（名越委員代理）、内山 浩一郎、亀口 敬
- 4 事務局** 金子まちづくり部長、梅山まちづくり推進担当課長、稲毛都市づくり課長
下田まちづくり推進担当係長、伊古田主任、山崎主任、関根主事
- 5 次 第**
- （1）座長挨拶
 - （2）委員紹介
 - （3）副座長の指名
 - （4）議事
 - （ア）全体構想（素案）に関する市民意見について…………… 資料1～3
 - （イ）都市の将来像の設定について…………… 資料4
 - （ウ）分野別方針検討項目（案）について…………… 資料5
 - （エ）地域別構想（検討資料）について…………… 資料6
 - （オ）改定スケジュールについて…………… 資料7
 - （5）その他

<資 料>

- ・ 資料1…東大和市都市マスタープラン全体構想（素案）に関する説明会
- ・ 資料2…東大和市都市マスタープラン全体構想（素案）に関するオープンハウス
- ・ 資料3…「東大和市都市マスタープラン全体構想（素案）」に係るパブリックコメントの結果について
- ・ 資料4…都市の将来像の設定について
- ・ 資料5…分野別方針検討項目（案）
- ・ 資料6…地域別構想（検討資料）
- ・ 資料7…都市マスタープラン改定スケジュール（案）
- ・ 参考資料1…第1回東大和市都市マスタープラン改定懇談会会議要録

6 議事要旨

(ア) 全体構想（素案）に関する市民意見について（事務局から資料説明）

（質疑応答）

○委員

資料を見る限り、しっかりとした市民意見が多くあるという印象を受けた。パブリックコメントの質問も、都市計画等に詳しい方からのものであると推察できる。

市民もしっかりとした意見を持っていることから、改定都市マスタープランにおいても市民意見が反映されたものができてくるのではないかと感じている。

○座長

市民意見は今後計画作成の中で反映させていくものとする。

○委員

将来像の候補にある「住みたい・住み続けたい」という言葉自体はありふれていると思うが、その先にプラスして何を目指していくかを考えていくのが大切だと思う。

○座長

住み続けている多くの方は満足度が高いものと思うが、その先、この人口減少社会の中、プラスでまちを良くしていくことが求められていく。

また、説明会等への出席人数が少ないため、人を集めるための工夫があるとより良い。

(イ) 都市の将来像の設定について（事務局から資料説明）

（質疑応答）

○座長

「住みたい・住み続けたい」に対しては、将来像に掲げるまでもなく、当然目指すべきである意見があった。そこで作成した派生案ではその先を発展させたものと考えられるが何か意見はあるか

○委員

暫定案は良いと思うが、人口減少社会において人の移動が激しい中で、その対策をどうするかが情報社会においては大切である。

今は市町村においても競争の時代でメディアでは住みたい街ランキングなどが毎年発表されている。毎日が競争である商売をしている立場からすると「選ばなければしょうがない」と思う。東大和市には「選ばれる力」がないと憂慮している。

個人的には都市間競争をリードしていくために、将来像は「選ばれるまち」が良いと考える。周辺を牽引するためには選ばれる街になることが大切だと思う。

○座長

将来像として掲げるには「住みたい・住み続けたい」だけでは物足りないかもしれない。

○委員

将来像の投票結果を見ると、高齢者層の回答が多い。今後、住むことを考える立場である若い世代の回答が増えれば良いと感じた。

投票結果の内訳から「住みたい・住み続けたいまち」に若い世代からの得票が多かったことは注目したい。

住み続けたいというからには福祉的な観点も大切だと思う。暫定案に何か付加するとすれば「安心できるまち」が良い。

○委員

「住みたい」と「住み続けたい」は全く別物であると思っている。

高齢者は「住み続けたい」と思い、逆に「住みたい」と思うのは若い世代であるので、人口問題等を考えれば、重視すべきは「住みたい」であると思う。

将来像はありふれたものになりがちだが、定めたものを徹底していくことが大事である。そういう意味では徹底できるような要素を入れていくと良い。

文言だけで他市との差別化というのは現実的には難しいと思う。

○座長

個人的には「成長するまち」など未来につながるキーワードが欲しいと思った。

「住みたい・住み続けたい」をベースとしつつ、未来につながるキーワードがあると将来像にふさわしいものになると思う。

○委員

きれいな街というのは精神的、時間的、財政的なゆとりがないと実現できない。きれいにするのは市ではなく市民が主体であるべきではないかと考えている。

清掃や花の植栽などのまちの緑化の現状としては、北部地域に比べ南部地域が不十分であると感じる。また教育環境についても、中学校進学とともに市外の学校に出ってしまう人もいると聞いており不十分だと感じている。

まちづくりの基盤は経済であるという考え方もありかと思う。市民参加で市民自ら街を良くしていくことが今後は必要だと思う。計画段階よりも実行に移すことが大切である。

○事務局

派生案について補足をする、「住みたい・住み続けたい」に続く言葉はすべて頭文字が「S」となっている。頭文字に拘る必要はないが、覚えてもらいやすいことからこうい

った派生案を提案させていただいた。

(ウ) 分野別方針検討項目（案）について（事務局から資料説明）

(エ) 地域別構想（検討資料）について（事務局から資料説明）

（質疑応答）

○座長

地域区分について計 8 地域に分けているが、今後の検討では地域に捉われず、地域の住民の生活圏がその地域のみにとどまらないことに留意して欲しい。

○委員

第二次基本計画では公共施設の配置構想を踏まえた生活圏域として市を 8 地域に分けていた。都市マスタープランはこの流れを踏襲して 8 地域としていた。

公共施設は各地域それなりに充足していると考えているが、今後を考えると 8 地域すべて同じ水準で整備するというのは現実的ではない。

新青梅街道の南北でまちの様子は大きく異なる。北側地域は現在の地域区分に捉われず、広く捉えても良いのではないか。

○座長

最終的な成果物の見栄えは、細かく分けた方が見易いと思うが、実効性を考えれば地域区分をまとめるという選択肢も考えられる。

○委員

地域区分について、地域別構想とは別に定めている（Ａ）上北台駅周辺地区と（Ｂ）東大和市駅周辺地区に加え、新たに（Ｃ）狭山丘陵を設けて考えても良いと思う。

東大和市のもつ特徴であり、観光に資する唯一の場所であるためである。

狭山丘陵には都市計画以外のアプローチも必要であるため、最も難しいものとはなると思われる。

○委員

個人的には東大和市に赴任した際、住みやすそうであるという印象があった。防災訓練も盛んだと思う。特に南街地域は横のつながりとしての自治会の連携が機能している。他地域もこれを防災のモデル地区として横の連携があるとより良い。

○座長

現状の案では防災の要素は少ないので、参考にしたい。あわせて、事前復興の要素の記載も盛り込むと良い。

○委員

多摩都市モノレールの延伸について。延伸後の上北台駅がただの通過駅にならないようにしたい。芋窪街道沿いにもモノレールが北進してくれたら理想的である。

また、多摩湖の周遊道路は住民の生活環境のためバイク禁止となっているが、人を呼ぶのであれば交通規制の解除も検討しなければならない。人が多くなれば通ってしまうバイクも増える懸念がある。

○事務局

交通政策審議会でもモノレールに関する検討がされており、その内容に基づいて今回、瑞穂町の方まで延伸となっている。その中で埼玉県の方へ延伸するという話は挙がっていない。

○委員

狭山丘陵の位置付けに漠然と観光とあるが、そのように位置づけるのなら交通を受け入れる基盤も大切である。上北台から狭山丘陵への移動はやはり自家用車が多い気がする。バスは遠距離間をつなぐネットワークであって、実際には自家用車での来訪が多いと思う。季節的な観光による集客を見込むならば、桜の季節など集客が極端に増える場合も想定しておいた方がよい。

都市計画事業のような整備はすぐには出来ないが、今後作成する計画が実を結ぶ20年の間に、できることから着手するべきである。

市の中央部に拠点がないことも気になる。

モノレールの北進の話がなかなか出ないのは残念である。道路も都市計画道路立3・3・30号が開通すれば市から埼玉県へ向かう道路の渋滞が緩和できるのでぜひ進めてほしい。

西武新宿線の乗り入れがないのを何とかしたい。選ばれるまちになるには、アクセス性も重要、なんとかアクション起こせないか。市でも働きかけて何とかする気概が欲しい。

○座長

何も主張しなければ何も起きないので、本当に必要なら根気よく意思表示をしていくべきだと考える。

○委員

住宅地化が進む工業地域の用途地域の色分けについてどのように表現すれば良いか。

○座長

用地地域の変更は出来ないが、都市マスタープランの記載で対応することになる。

○委員

玉川上水駅付近の工業地域は現状マンションが立ち並ぶ住宅地となっているため、そこ

に住む方からすれば既得権益の意識が強くなり、工業の操業がやりにくくなる恐れがあるので、表現・線引きは気を付けて行うべきである。

市の歳入を考えても、大規模工場に出て行ってもらっては困るはず、商工会としても現在の操業環境を守りたいと考えている。

○委員

新堀地域の火災危険度が高いところがあると認識している。

建替えの推進も良いと思うが、個性のない街並みになりがちなので、街の個性を生かす、生むような検討も大切である。

（オ）改定スケジュールについて（事務局から説明）

以　上